

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立前の準備段階より、法人の方向性を定めるランドデザイン会議(ワークショップ等)を通じて、法人独自の理念を定めている。		いずれは、平易でわかりやすくシンプルなものに変化させていきたい。また、基本的な芯はあまり変えるべきではないが、時代ごとに利用者や家族の変化があるように柔軟に変化できる姿勢も持つ必要がある。
2 理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念と介護理念を玄関に掲示しいつでも確認できるようにしている。また、職員採用時のオリエンテーションの際には、管理者から理念の説明を行い、理念について記載された用紙を配布している。また、必要の都度、正規職員会議や定例会議の際に理念に触れるようにしている。		必要の都度、正規職員会議や定例会議で理念に触れるようにしてきたが、今後は会議の都度、全職員で読みあわせを行い、共有を図りたい。また、シンプルな形にして朝礼等で唱和できるようにしたい。広報にも掲示するようにする。
3 家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	設立前に、住民説明会を開催し理解を求めた。施設開放祭り際には、近隣住民を招待している。また、玄関の見やすい位置に理念を掲示したり、中庭をオープンガーデンにすることで地域の方々が自由に理念を目にする機会を作っている。また、運営推進会議に地元区長や民生委員に参加頂き、折に触れ理念を伝えている。		地区の会合などで、本施設の役割等の理解を深める機会を増やして行きたい。以前地区の広報誌に施設紹介を掲載していただいたが、定期的に掲載してもらえよう願っていききたい。また本施設の広報を地区へ配布できれば良いと考えている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4 隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に利用者と同行で散歩と散歩コースのゴミ拾いをしており、その際に近所の方々と挨拶を交わしている。また、中庭をオープンガーデンにしており、自由に出入りが出来る雰囲気づくりに努めている。		近隣住民が気軽に集まってお茶会を開けるような場所として提供していきたい。近くの子供たちが中庭で自由に遊べるようなミニ公園化していきたい。隣組の飲み会等に参加できるようになりたい。
5 地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の一員として自治会に加入。区費を支払っている。地区の公園清掃等の手伝いを行ったり、地区の行事(子供神輿・獅子舞)の巡回に来ていただいたり、地区の広報誌に施設紹介を載せていただいたりしている。また地区の子供たちが学校で育てた花を飾りに来てくれる。すぐ近所の方が、週3回ボランティアに来て頂いている。また、ご近所の方が2年目からは理事(役員)になっている。		自治会の区長と相談し、地区の行事等のスケジュール等を把握し、もっと積極的に地域活動に参加していきたい。(地区の回覧板等を回していただけるような働きかけを行いたいし、可能であれば組長のような役も引き受けて行きたい。)

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>左記の検討している内容と同じ。その他にも、地区の高齢者等を対象とした、ボランティア講座なども計画したい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>今回の評価を契機に、外部評価制度全般の意味を理解し、全職員が同じ方向性を持てる為のツールとしたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>職員は順番に参加しているが、可能であれば複数の職員が参加できるようにしていきたい。定期的に来て頂いているボランティアの方に参加して頂いた機会があるが、恒常的に参加していただけないか検討している。また、利用者の参加の機会がないのもっと参加を促したい(家族参加も)、交流スペース等の活用により、施設内開催の機会を増やす。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>地域包括支援センター等市町村職員の中でも、交流の頻度等に偏りがあるので、なるべく全職員と交流が図られるように、機会を通じて増やしていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>職員会議の際に研修を実施し、知識、意識の醸成を図りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>高齢者虐待防止関連法について職員会議で研修を行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明書にて説明を行い理解納得を得ている。また、不安や疑問点については重点的に説明し解決を図っている。</p>	<p>定期的な、文書内容の見直しを行い、わかりやすい表現等の工夫に努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を設置し、館内にその旨を掲示している。また、日々のケアの中から思いを感じ取ったり、話しやすい関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者に気を使わせることのないよう、全職員が良い関係づくりを目指し、常に相談を受けやすい雰囲気づくりに努めたい。また、認知症利用者が相談しやすい仕組み(定期的に管理者(所長)相談日を設ける等)を検討したい。外部オンブズマン等の依頼を検討したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に1回の請求書、領収書の送付時及び連絡のノートを活用して金銭に関すること、簡単に生活の様子を知らせるなどしている。体調変化や受診後の報告、外出などの行事参加の承諾などは、必要に応じ電話している。</p>	<p>利用者の普段の様子を伝えるビデオレターのようなものが出来ないか検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>連絡ノートの活用、運営推進会議への家族代表の参加、家族懇談会等を設けることで意見や不満、苦情を表す機会を設けている。出された意見等は職員会議で話し合い改善に努めている。施設整備ボランティア(春～秋)の日に整備後の家族懇談会等を通じて意見要望等を聞く機会としている。</p>	<p>GHでは家族会を開催しているが、隣接の小規模多機能施設では、施設整備後の懇談会の機会はあるが、家族会が組織できていないので今後は開催していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>理事長及び管理者(別々に)と年に1～2回の個別面談の機会を設けている。また正規職員会議、全職員定例会議、看護師会議を月に1回開催する等して、意見や提案をする機会を常に設けている。</p>	<p>非常勤職員のための公聴会のような会議を今後開催していきたい。理事(役員)会時に職員の代表等に参加してもらい意見を述べてもらう機会としていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者、計画作成担当者は柔軟な対応ができるような勤務体制に努めている。また、必要時には勤務調整及び超勤対応を行っている。</p>	<p>可能であれば、ある程度の余剰人員(登録雇用者)を確保し、より柔軟な対応が出来るよう進化させていきたい。</p>

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>過去、止むを得ない理由による離職が発生したこともあり、出来る限り馴染みの関係が崩れないように配慮してきたが、少なからずダメージもあったと考えられる。</p>		<p>職員の満足度も高め、やりがいの持てる職場づくりを行い、極力離職しないような仕組みを整備する必要がある。(馴染みの関係の維持の為に)</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修係を設け、係を中心に研修計画を立て、毎月行われる職員定例会議で研修を行っている。外部研修については県介護センターや各種協会が開催する研修に積極的に参加するようにしている。</p>		<p>外部講師を招聘しての研修や、外部研修への非常勤職員の受講等、研修の機会を増やしていきたい。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月1回行われる町内の地域ケア会議に参加して交流を図ったり、会議の中で行われる研修を通じて質の向上が図れるようにしている。近隣のグループホームの会議(善光寺平グループホームねっと)に参加し、情報交換や研修を行っている。</p>		<p>町内の小規模事業所同士の連絡会議を設け、協力支援体制がとれないか検討したい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が気分転換を図れるよう休憩室を確保している。不定期ではあるが各職員が運営者と直接話す機会を設けている。また、毎月各職員の誕生月に誕生会を開催し、ストレスや悩みの解消に繋がれるよう配慮している。</p>		<p>外部的なメンタルヘルスケアの導入や、嘱託医との連携を図りたい。多目的スペースを別に確保することで、職員の休憩や休息、仮眠等の心身が休まる面での充実を図りたい。3ヶ月に一度程度、個別面談を行い、ストレスサインを早目に気づけるような仕組みを検討したい。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来て利用者や職員と話したり管理者から業務報告を受ける等して、業務上の悩みや課題を把握するよう努めている。</p>		<p>仕事のやりがいが常に持てる職場づくりを目指す為、職員の声に耳を傾ける機会を多く増やしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用決定に当たっては、利用希望者及び家族と面談を実施。その際、身体の状態の他、悩みや希望、生活歴等を聞き取る事で理解を深め利用開始前後の関わりに反映させている。</p>	<p>急な住み替えに伴うダメージを防ぐため、利用対象者に対して、併設の小規模多機能施設独自の仕組み（訪問から始まる関係づくり等）を活用して馴染みの関係を築き、利用に結びつける等に取り組んでいきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの経緯を時間をかけて聴くようにしており、特に利用開始直後は頻繁に家族と連絡をとり状況把握に努めている。</p>	<p>家族にとって、グループホームの利用を希望するのは、最後の砦のような、すぎるような強い思いがあるので、初期段階においては特に、傾聴を心がけ、介護負担の軽減が図られるようにしていきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状態と生活状況等について把握する中で、必要としている支援を見極め適切な情報提供とアドバイス（必ずしもグループホームがマッチしているとは限らない場合もある）に努め、選択権は常に本人（ご家族）にある旨を説明をしている。</p>	<p>当然ではあるが、家族の思いや希望から相談に入るケースが多いが、常に認知症利用者の心の声に耳を傾け、利用者本位の原則を忘れず支援していきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面談時にパンフレット等を用いサービスについての説明を実施している。可能な限り本人の見学を勧め、理解、了解を得る工夫をしている。</p>	<p>職員に馴染んで頂けるよう、信頼関係が築けるまでの間、自宅に訪問する。（なるべくなら少数の同じ職員で対応したい）</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人ができる家事や作業を共に行う中で、教えていただいたり、教えたりしながら支えあえる関係を築いている。</p>	<p>残念ながら常に全職員が、共に支えあえる関係としての視点に気づいていない。相互扶助や共感の視点は、援助者と対象者という関係を超えた「分かち合える」領域であり、もっと感性を深める必要があり、そうした学習の機会を作って行きたい。</p>

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に、家族を巻き込むような視点で接すること(働きかけ)を話している。また、家族にもボランティアをお願いし、草取りや掃除を一緒に行いながら本人の様子を知っていただき、また、職員が知らない本人のことを教えていただけるような関係を築いている。		家族もお客様であり、巻き込むという視点は、わずらわしさにも通じかねない。しかしながら、利用者を支援する協働の立場である認識を、常に家族には理解して頂く必要があるので、機会を通じて話すようにする。また、職員も積極的に家族と連絡を取るようにしたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年間を通じて、お盆や年末年始など家族の休日を利用して、外出や外泊をして家族と共に過ごすことを勧めたり、施設開放祭り、クリスマス会等の行事、整備ボランティア等を通じて家族に参加して頂き、本人と家族が接する機会を増やし、施設側との協働の関係が築けるよう支援している。		困難な介護に直面すると、両関係が悪化する場合があるが、社会的介護サービス利用により、介護者の負担が軽減されると、関係がうまく保たれる場合もあるので、適切なサービス量を見極めながら、きめ細かな支援により良好な家族関係が保てるよう支援したい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす友人や知人に遊びに来てもらったり、本人が希望する場合には、馴染みの場所へお連れするなどしている。また、家族にも馴染みの場所や人との関係が途切れないよう折を見て説明し理解を求めるようにしている。		友人知人の家を訪ねる支援や、送迎付きで友人知人を施設へお連れする支援等を検討したい。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症や生活の違いによりお互いに理解しにくい状況もあるが、職員がそれぞれの人間関係を理解し介在するようにしている。		利用者人間関係が、認知症の周辺症状に影響が出る場合があるので、常に人間関係のバランスに注意し、配慮するようにしていきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前利用していた利用者宛に、施設開放祭りの案内を送付したり、以前利用していたご家族(農家)がりんご等を持ってきてくれることがあります。		お亡くなりになった利用者ご家族と職員で「偲ぶ会」のようなことを検討したり、ご家族がボランティアとして交流できるような支援を検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、本人の言葉や表情から意向を把握するよう努めている。また、困難な方の場合には、家族などから過去の生活歴等の情報を得ることで推測している。</p>	<p>認知症センター方式によるアセスメントの活用等を検討したい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>サービス利用開始前に自宅に訪問したり、施設に来所頂くなどして、本人や家族などから聴きと取るようにしている。また、利用開始後も同様に把握に努めている。</p>	<p>同上</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の日誌、ケース記録等により総合的な把握に努めている。身体の状態が精神面で大きく作用することを理解し、把握に努めている。</p>	<p>記録の不備により正確なデータ把握が難しい現状があるので、向上したい。また、マイナス面の記録が多いが、プラス面を多くした、本人の出来る能力を評価する個人記録にしていきたい。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日ごろのかかわりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。また、職員会議で意見交換やカンファレンスを行っている。</p>	<p>定期的な計画の見直しが出来ていないので、ケース検討の内容が反映され、PDCAサイクルがきちんと機能するよう、見直しと再評価、検証、実施を繰り返し出来る仕組みづくりを行いたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員会議等でケース検討された意見を基に、家族の了解の下、必要の都度ケアの内容修正や見直しを実際行ってはいるが、計画を修正し、作成し直すことまでは出来ていない。</p>	<p>常に現状に即した計画となるよう、ケアの方針等重要な修正が行われる場合は、確実に計画の変更を行うようにしたい。また、何故見直しに至ったのかというケース検討記録を徹底していきたい。</p>

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなど記録している。ファイルはいつでも全ての職員が確認できるようになっており、勤務開始前の確認を義務付けている。		当日の記録担当者だけでなく、担当者以外の職員が把握した情報を共有できるよう記録に残す方法を検討したい。プラス面の記録(出来ること)を活用する方法を検討し、ケアの実践内容に厚みが増すようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、買い物支援、自宅訪問等、本人、家族の状況や要望をもとに常に臨機応変に対応している。		地域の社会資源を積極的に活用し、より地域に出ていけるような柔軟な対応の日を増やしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアセンターや近隣の保育園、その他施設への働きかけを行い、ボランティアへの協力を依頼している。		学校や図書館、公民館等と連携できる方法も模索していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの職員とも話し合い、他のサービスの活用を図るようにしている。地域の事業者が行う、サロンを利用したりしている。		近隣市町村の介護サービスや社会資源の把握を常に行い、常に新しい情報を備えられるようにしていきたい。また、地域の自治会などが行う行事等の情報を集め活用できるようにしたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは連絡を密に取り合っており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		職員との交流の機会を増やしたい。利用開始後も利用者の相談を密に行い相談に乗っていただくようにしていきたい。

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。ただし、看護師が受診の必要性があると判断した場合には、家族と連絡を取り同意を得た上で受診するようにし、必要に応じて往診を依頼する場合もある。		連携医療機関としての開業医の数を増やすか、本人とご家族で相談の上、ある程度は特定の開業医に主治医になっていただけるよう検討したい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断、治療が必要なケースについては、家族に専門医の受診を勧めている。必要な場合は受診同行対応(状態説明・服用後の症状報告・相談等)を行なっている。処方箋薬の支払い、受け取り等の支援も行なっている。		近隣市町村の認知症専門医の情報を集め、正しい情報を家族に伝えられるようにしたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に確実な連携を行っている。		将来的には、正規の常勤看護職員の採用を検討していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は慣れない場所、治療処置等で心身に大きなダメージをもたらすため、馴染みの職員が頻繁に見舞うようにしている。また、家族やケースワーカーとも情報交換しながら速やかな退院支援が図れるよう努めている。		本人はもとより家族もダメージを受けるので、家族支援の方法(食事介助や夜間の付き添い等の負担軽減策等)を検討していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化により、終末期に向けた対応が求められる場合において、本人の思いと家族の希望を考慮し、全職員で検討したことがある。また、家族会でも終末期ケアについての意見交換を行ったことがある。		職員、家族共に終末期ケアをどうするのかという勉強会や研修の機会を増やしていきたい。また、かかりつけ医とも、早目に話す機会を検討したい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まず、事業所として受け入れをどのようにするかという事と、次に受け入れに向けてチームとしてどのようにするかということの準備や検討が行われていない。		暮らしを支える延長線上に看取りがあり、本人及び家族の意向と、職員の思いや体制を十分協議しながら検討していきたい。

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えによる不安やダメージをできる限り防ぐ為、使い慣れたものを持ってきていただいたり、家人に面会に多く来ていただいたり、顔馴染みの方の協力を得るようにしている。</p>		<p>ダメージを極力減らすため、当初は家族と一緒に泊まれるような仕組みと、働きかけ、及び家族宿泊も踏まえた多目的室の整備を検討していきたい。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報については、職員会議の際等に研修を行っている。守秘義務同意書の提出も全員に求め退職後も遵守を求めている。家人にも説明し、情報伝達の際の同意の文書を交わしている。利用者に対し、自尊心を傷つける言葉かけや対応をしないことをケアの基本としている。</p>		<p>自尊心や羞恥心に配慮したケアの質を高め、徹底を図りたい。また、プライバシーに関して広報誌等の記事掲載についての同意を得るようにしたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方は表情を読み取り、意思を聴き取るよう努め、自分で決められるように働きかけている。</p>		<p>認知症利用者や失語症利用者の意思や想いを正確に受け止められるよう、研修を通じてコミュニケーション能力を高めるようにしたい。(認知症の研修会や失語症等の研修会を計画したい)</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは決まっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。個人の体調や気分によって、出来る限り個別性のある支援を行っている。</p>		<p>体制の問題があるが、夜間の入浴希望や、食事時間の変更等に応えられる様に検討したい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容については本人の希望に沿って実施しており、馴染みの理美容店がある方にはできる限りそちらを利用して頂くようにしている。どうしても希望される場合には職員で対応することもある。身だしなみについてはTP0に合わせて自分で選べるよう支援している。</p>		<p>女性利用者の化粧ケア等を実践していきたい。いづれは、かつら等も用意したい。(家族に短く刈られてしまう場合があるので)</p>

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>行事にあわせ、バイキングや寿司等を食べる機会を設けてきているが、もっと外食できる機会を増やしたい。(家族の同意により)くるくる寿司にも行きたい。また、プロの料理人を招いて施設内レストランをオープンしたり、すし職人の握り実演や、蕎麦打ち等も行いたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>本人の嗜好に合わせた、本人と一緒にいく買物支援を行いたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>誘導やリズム把握によりオムツ使用の軽減を図りたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>体制の問題があるが、夜間入浴の希望に応えられる様に検討したい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>午睡時に、安眠スペースが確保できていないので、早期の多目的室の検討が必要。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>もっと個別に楽しめるレクリエーションや、個人的に行きたい場所への支援等を行いたい。</p>

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事務所で管理を行っているが、外出時や買い物などの際には自分で払っていただけるよう財布を渡すなどしている。		金銭の出し入れが適度な緊張と計算能力の維持につながるような支援を考えていきたい。
61 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や本人の希望や季節に応じた外出、散歩を実施している。		一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて喫茶店や外食、友人宅へ遊びに出掛けるなどの支援をしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生まれた実家やお墓参りに行きたいという希望に対して、ドライブをかねてお連れしている。長期利用者にとっての自宅は、普段いけない場所にあたると考えれば、そうした支援も行っている。		お墓参り、実家詣で、海等、希望を確認しながら、今後も実施していきたい。
63 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などへの電話を希望される場合は、事務所にて電話を利用して頂いている。また、家族や親戚、友人から電話が来た場合には取次ぎを行っている。葉書や手紙に対しても、本人が返礼出来る様に支援している。		絵手紙講座等を開催して、本人が手紙を出したい人に出せるようにしたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人知人等の来所は時間を決めず都合の良い時間に来所いただけるよう配慮している。個室での面会をして頂く場合と、居間で皆さんと一緒に気軽に話していられる方もある。		高齢の知人等は、施設まで来る手段が無い場合があるので、送迎サービスを検討したい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は重要事項説明書にも明記し行なわないことにしている。安全確保など緊急、一時的にやむを得ない場合には「身体拘束同意書」に記入し、家族の同意を得ることになっている。ケア会議で確認を行い、言動、薬等を含め検討している。		絶対に行いません宣言等を実施したい

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子が見られた場合には、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、行きたい場所を確認し自動車と一緒にいくなど安全に配慮して自由な暮らしを支えるようにしているが、危険が伴う場合に施錠を行なう場合もある。		職員体制と見守りの強化と、地域住民の皆様の見守り等の連携を図り、なるべく施錠しない環境にしたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の心と身体に寄り添うことを心がけながら、何気ない雰囲気の様子や所在の確認をするよう努めている。		以前、数回利用者が行方不明になっており、地域の住民の皆様や消防団の皆様のお世話になったことがあったので、地域住民の皆様には利用者を見かけたら一報をとお願いしてある。職員も通常の目配り(見守り)の徹底を更に図って行きたい。また、地域住民にも引き続き見守りをお願いして行きたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	厳重に管理するものとそれ以外のものを区別しており、利用者が必要とする時にはいつでも使用可能となっており、利用者が使用する際には注意をするようにしている。		家族にも説明し、了解は得るようにしているが、書面等で確認を取るよう検討したい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の業務の中で、インシデント、アクシデント報告書を記録し、全職員に回覧並びに職員定例会議でも今後の予防対策について検討している。		KYT(危険予知訓練)等のシュミレーション研修を実施したり、常に高齢者には危険が伴うことを認識しつづけるように機会あるごとに話して行きたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員を対象に、年1回の救急法(心肺蘇生法&AED取り扱い)の研修を実施し、体験・体得・習得するようにしている。また、緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。急変時観察及び連絡シートを常に身近に置いている。		AEDを設置したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に消防署の協力を得ながら利用者と共に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼び掛けている。		地域住民を交えた避難訓練の実施や、夜間非難訓練等を実施したい。また、災害発生時に備えて、食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげるような備品の貯蓄準備を進めたい。

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	サービス利用開始時及び面会時、家族会や個別面会時に生活の様子や予想できる範囲のリスクの説明を行なっている。体調や、精神面での変化、薬のリスク等も説明している。		リスク確認書(仮称)等により同意を得るような方法も検討したい。また、常に良好な家族との関係が築けるようにしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌、ケース記録、バイタルチェック表などの記録確認、日々の引き継ぎ等を通し情報を共有し早期発見に努めている。変化が見られた時は看護職員と管理者に相談する等早めの対応に心がけている。		記録が不十分なので、正確な記録が徹底されるようにしたい。
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース記録ファイルにファイリングして、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと内服出来ているのか確認している。処方内容が変更になったり、本人の状態変化がある際は詳細な記録を取り、看護職員を中心に主治医や協力医療機関と連携を図っている。		医師や薬剤師等による薬に関する研修会を実施したい。
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品使った献立を心がけている。また、適度な水分補給を心がけ、散歩やラジオ体操など運動も促し、自然排便できるように取り組んでいる。		適度な水分補給の徹底を図る為の仕組みづくりや、冬季間の運動不足が懸念されるので、室内運動や、運動量のあるレクリエーション等を実施していきたい。
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、職員の見守りや介助が必要な方には寄り添うようにしている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。また、職員定例会議では口腔ケアをテーマに取り上げた研修も行っている。		歯科医師及び歯科衛生士等による、入れ歯手入れ研修や、正しい歯磨きの仕方等の研修を行いたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、ケースファイルに転記し、全職員が情報を共有できるようにしている。		食事量の変化検討や、食事量の制限及び、栄養士による献立づくり等の検討をしたい。

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、インフルエンザの予防接種を職員・利用者共に受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用したり、玄関に手指消毒液を設置している。職員が媒介とならないよう、手洗い・うがいを出退勤時に義務付けている。		1ケア1手洗い、持ち込まない・持ち出さない等の職員意識が十分とは言えないので、徹底を図りたい。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・布巾等は毎日消毒している。食器についても定期的に消毒している。冷蔵庫は点検・清掃し、食材の残りは状態を確認し冷凍したり処分したりしている。		保管時の期限等や保管方法の管理の見直し、また滅菌庫の活用を図りたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、観葉植物を置いたり、花を生けたりして季節感を演出している。また、中庭をオープンガーデンにしており、中庭から玄関へも入れるようになっている。中庭側の玄関はウッドデッキになっており、立ち寄った方がお茶を飲めるスペースも造っている。		観光ルートになっているので、観光客も紛れ込んでくるのがありがたいが、近隣住民も含めもっと楽しく入りやすいような仕掛けを検討していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理の音や匂い、季節感のある生け花、観葉植物等のグリーンを飾るなどの工夫をしている。また、心地の良い音楽を流す工夫もしている。		常にご利用者の気持ちに配慮し、確認しながら心地良い空間づくりに努めたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のウッドデッキスペースに椅子とテーブルを置き、一人で過ごしたり、煙草を吸ったり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。こたつも自由に利用してもらっている。		他の利用者の視線が気になる場合があるので、パテーション等も活用して、他の利用者が気にならないような空間作りも検討したい。(安全面も考慮しながら)

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物や写真などを持ち込んでいただき居心地よく過ごしていただけるようにしている。また、家族にも協力を依頼している。</p>		<p>今後も、利用者や家族と話し合いながら、居心地の良い居室作りを行きたい。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>フロアは清掃時や一定の時間帯に換気をしている。外気との温度差がある場合は、温度計と利用者の様子を見ながら調整している。</p>		<p>職員体制によるバラツキがあるので、徹底できるような仕組みを検討したい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ、浴室への手摺の設置をし安全確保、自立への配慮をしている。また、利用者の状態変化に応じて住環境の見直しを行っている。</p>		<p>将来的な利用者の身体状況の変化にも柔軟に対応できるように準備したい。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>同じ形状の扉などが原因による混乱を防ぐため、扉のガラスの模様を1枚ずつ違うものにしたたり、部屋の名前を表札のように表示したり、それでも混乱が見られる場合には、わかりやすい目印をつけるなどの工夫をしている。</p>		<p>レクリエーション等の日常生活リハビリを通じて、「わかる力」の維持に努めていきたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭のウッドデッキには椅子とテーブルがあり、仲の良い利用者同士がお茶を飲んだり日向ぼっこを楽しんだり出来るようになっている。また、庭の隣には畑があり、農作業を希望される方が楽しめるようになっている。散歩も楽しめるコースとなっている。元栗畑の立地を生かし、秋は栗の収穫が楽しめている。</p>		<p>将来的には、広大な敷地を生かした、園芸療法や動物等の飼育により動物療法等も検討していきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

いきいき家族おぶせ(けんちゃん家)

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小規模多機能ホーム「つどい処」とグループホーム「けんちゃん家」からなる「いきいき家族おぶせ」は開設して3年目を迎えようとしています。「健康的なぬくもり」で、地球に優しく、人に優しい場所(施設というより居心地の良い第2の家)にしたいとの思いから、特に環境面に配慮し、太陽熱を利用したOMソーラーシステムを採用しています。環境にもやさしいようにと、雨水利用が出来るための地下タンクや、近隣周囲の果樹園から出る薪を頂戴した地域交流も含め、薪を利用したストーブも導入しております。また、「心のぬくもり」を考え、大勢のボランティアリピーターが定期的にも不定期にも訪れてご利用者の皆さんを楽しませてくれています。施設開放祭りでは、庭にあるピザ釜&燻製機で作ったご馳走を振舞うイベントを開催したり、広大な庭の一部を畑にして野菜づくりも行いながら、地域の人たちとの交流を図っています。中庭はオープンガーデンになっており、花壇整備を通じてどなたたでも自由にご覧いただけます。その中庭は、隣にある保育園の園児たちの散歩コースにもなっており、園児と利用者の交流の場にもなっています。「できること」「わかっていること」を探し、大切にすることで、常に笑いの絶えない家庭(家族)を目指したいと思っています。また、地域の一住民としての役割も果たし、さらに地域と密着した事業所を目指したいと思っています。